



# 決議が可決されました

※決議は、議会が行う事実上の意思形成行為で、議会の意思を対外的に表明するものです。

## 中国の防空識別圏設定に強く抗議し、直ちに撤回を求める決議

中国国防省は11月23日、沖縄県石垣市の尖閣諸島上空を含む空域に、戦闘機が警告のため緊急発進(スクランブル)する際の基準となる「防空識別圏(ADIZ)」を設定したことを発表した。

言うまでもなく、尖閣諸島は我が国の領土であり、中国が領有権を主張したことによって大変厳しい対立と緊張を生じさせていることは、世界的な懸念材料となっている。その上、今回のような他国の領土の上空も含む一方的な防空識別圏の設定は、これまでの外交努力を無にするばかりか、いっそう軍事的緊張を高めることにしかならないことは明らかである。

どのような言い分があろうとも、ある国が実効支配している地域に対して、力によってその変更を迫るといったやり方は、一時代前の誤った覇権主義であり、ASEANや中南米諸国を中心に広がっている、紛争の話し合いによる平和的な解決という、今日の世界の流れに逆行するものである。

国際都市を標榜する尾道市の唯一の議決機関として尾道市議会は、日中間のみならず、中国と他のアジア諸国及びアメリカとの軍事的緊張関係をいっそう募らせ、極東地域の平和と安定を脅かす今回の中国の防空識別圏設定に強く抗議し、直ちにその撤回を求めるものである。

以上決議する。

# 請願が採択されました

※請願は、市政に対する意見や要望等を市議会に提出するものです。議会では、請願の実情を調査するなどして慎重に審議し、採択・不採択を決定します。議会で採択した請願は、執行機関に送付するなどしてその実現を求めます。

## 「おのみち街かど文化館」にかかわる請願

私たち尾道市内の美術関係の団体は、「絵のまち館」が平成25年11月末をもって廃止されることに大変な衝撃を受けました。ところが、それに続いて「おのみち街かど文化館」が尾道大学に譲渡されることを知り、大いに困惑しています。

さまざまな分野で創作、研究活動に励むものにとって、作品発表は欠かすことはできません。そのため私達は、展示専門施設を借り展覧会を開き、より多くの市民や観光客に鑑賞してもらっています。今後もそのような活動をさらに発展充実させていきたいと願っています。

ところが「絵のまち尾道」のシンボルとして親しまれてきた「絵のまち館」のみならず、「おのみち街かど文化館」までもが自由に展覧会場として使えないことになれば、尾道市中心部の展示専門施設は皆無となって作品発表の場が極端に制限されてしまいます。

「おのみち街かど文化館」は市街地の中心に位置し、集客力のある展示専門施設として、「絵のまち館」の廃止により、今後一層利用の増大が見込まれます。

今、尾道市がなすべきは「おのみち街かど文化館」を旧白樺美術館のように、市立大学の専有でなく、一般市民にも開かれた新しい施設として再生させることではないでしょうか。

尾道市議会として地域文化の向上の観点と全市民的立場から「おのみち街かど文化館」の再生の方向や内容をよく考えていただき、「絵のまち尾道」にふさわしい新たな施設となるよう以下のことを請願いたします。

1. 「おのみち街かど文化館」廃止後も、同施設を市内の各種文化団体が利用できるようにすること。